

第10回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 平成26年度第10回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 平成27年3月13日（金） 午後1時30分から午後3時35分まで
- 3 開催場所 なのはなプラザ3階 一関公民館大会議室
- 4 出席者
 - (1) 一関市総合計画審議会委員 20人
及川忠委員、金野久美委員、小岩邦弘委員、坂本紀夫委員、佐藤芳郎委員、菅原行奈委員、菅原五三男委員、菅原勇委員、千田博委員、千葉和行委員、千葉博委員、千葉真美子委員、畠中良之委員（会長）、原田哲委員、槻山チエ委員、沼倉恵子委員、徳谷喜久子委員（副会長）、永山克男委員、三浦幹夫委員、水谷みさえ委員
（欠席委員 7人）
阿部新一委員、及川修三委員、小山亜希子委員、小山麗子委員、木村静恵委員、永澤由利委員、松岡千賀子委員、
 - (2) 市出席者 7人
勝部修一関市長、佐藤善仁企画振興部長、千葉敏紀企画調整課長、鈴木伸一財政課長、佐藤正幸企画調整課長補佐、菊地絵理子主任主事、菅原翔太主事
- 5 会長挨拶
新年度からまちづくりスタッフ会議が設置され、いよいよ基本計画の策定がスタートする。今日はそのために勉強していただく内容である。事務局からの説明を傾聴していただき、わからない点等質問していただきたい。
国の地方創生における予算措置など様々な新しい動きがある。今日はその点についても説明していただく内容となっている。
私たちは、時代状況にあった基本計画を策定できるよう、共に切磋琢磨し、勉強していきたいと思う。
- 6 市長挨拶
今、畠中会長から話があったが、国ではいろいろな変革があり、具体的なものが見えてきた。昨日市議会定例会が終わった。平成27年度予算を認めていただいた。一般会計662億円、平成26年度に比べると40億円少ない。昨年度までは箱ものをつくらなければいけなかった。ピークが過ぎたということでこのような予算となった。特に注意をして予算配分をしたのが子育て支援である。具体的に申し上げますと3年前に小学生の医療

費無料を実施したが、中学生まで医療費無料を広げたものである。人口 10 万人を超えている市で所得制限等なしで中学生まで医療費無料をしているところはめずらしい。また、不妊治療などにも県と同額を補助することとし、自己負担を軽減した。

子どもの成長過程に応じて切れ目ない支援策を組み立てたところである。

来年度は協働のまちづくりに向けて市民センターがスタートするほか、市の組織を大幅に機構改革した。

教育委員会の組織の一部を市長部局とし、協働のまちづくりを推進していく。また、トップマネジメントをスピーディにできるように市長公室をつくった。総合計画基本計画策定の動きもはじまる。基本構想を昨日の議会で認めてもらった。改めて御礼を申し上げる。

平成 27 年度は子育て応援予算を執行していく。協働のまちづくりのため、市民センターが動き出すなど大きな動きがある。

国では、昨年 9 月以降から矢継ぎ早に動きがでてきたので、市では情報収集にあたってきた。人口減少、高齢化、大きな課題に国としても本格的に取り組んでいかななくてはならないとなったもの。これに火をつけたのは増田レポートであり、地方創生大臣には石破茂氏が就任した。

国では、全国の自治体にも総合戦略の策定を求め、やる気のある自治体には、予算を出すような仕組みとしている。国で補助金、交付金をばらまいている図式はもうない。

自分たちの地域を真剣に考えなければ地域の振興は望めない。一関市ならではのものをしっかりと捉えて考えていかなければいけないと思っている。

市では、私が本部長となり、部長級で構成する「まち・ひと・しごと創生本部」を設立した。

また、国の地方創生のメニューにより、市では平成 26 年度補正予算を組んだが、平成 27 年度に繰り延べて実施することとしている。今後、地域の特性を生かした振興策を出していけるかどうか重要なポイントであり、第 1 回創生本部では、職員に一関市の活性化のためには何がよいか、とにかく考えろという指示を出したところ。

市が策定する総合戦略は基本計画とも関わってくることから、皆様からのご意見をちょうだいしながら市の発展に資するような計画としていきたい。

今日の午前中は室根中学校の卒業式に行ってきた。この子どもたちがあと何年か後に地元に残って一緒にまちづくりをしてほしいという思いを強くした。

I L C については、世界情勢の不安要素がある。国際的にアメリカが影響力をもっており、中東情勢に不安要素がある。そのこと以外は順調に進んでおり、早ければ夏までに有識者会議での中間報告が行われる。

- 7 議 題
- (1) 総合計画基本構想について
 - (2) 総合計画基本計画について【資料No.41】【参考資料】
 - (3) 平成 27 年度予算について【資料No.42】
 - (4) 総合計画実施計画（H27・H28・H29 年度）について

(5) 新市建設計画事業の進捗状況について【資料No.43】

8 審 議

(1) 総合計画基本構想について

事務局から議会の議決を経たことの報告を行った。

(2) 総合計画基本計画について

事務局から資料No.41、参考資料の説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

① 審議会委員意見

中東北の拠点都市として、宮城県北との連携を活発に行った方がよい。

・ 市長

宮城県北と連携を強化することとし、登米市、栗原市の首長と話し合い、同じエリアとして共に何かを行おうとしているところである。

② 審議会委員意見

まちづくりスタッフ会議の進め方について、文言を検討するのではなく、具体的な課題を与えてそれに対する対応を検討する方法とした方がよいのではないかと。

③ 審議会委員意見

具体的な課題を市で設定するのではなく、どのような課題があるかを話し合った方がよい。

会議の時間は2時間の設定としているが、足りるか。

・ 事務局

2時間で設定しているが、各部会で話し合いにより、時間を延長することは可能である。

・ 会長

全員が課題を共有し、そこから検討することが必要だと思う。

④ 審議会委員意見

総合計画策定アンケートや審議会の意見がどう基本計画に反映されるのか。

・ 会長

策定した基本構想により、各課において素案を作成してもらっていると理解して良い。

また、まちづくりスタッフ会議に参加する審議会委員が基本構想の考え方を伝える役割を担ってほしい。

- ⑤ 審議会委員意見
高校生ワークショップの開催を期待している。日程を早めに調整して実現させてほしい。
- ⑥ 審議会委員意見
スタッフ会議における審議会委員の役割はオブザーバーとなっているが、アドバイザー的な役割と理解してよいか。
- ・ 事務局
オブザーバーは立会人であるが、審議会委員については基本構想の考え方をアドバイスしてほしい。スタッフ会議は各課で作成したものを検討する役割、審議会はそれを最終的に調整する役割となる。
- ⑦ 審議会委員意見
地域福祉計画のワークショップに参加した。各分野の計画の策定が並行して進んでいるようだが、整合性はとれるのか。
- ・ 事務局
総合計画が全ての計画の上位となる。基本計画は分野別計画の総合的なもので、各分野には個別計画があると理解してほしい。
 - ・ 会長
総合計画が最上位であり、各分野の個別計画は総合計画に沿って策定される。個別計画は実施計画的なものと理解してほしい。
- ⑧ 審議会委員意見
防災の部分について検討する場が必要だと思う。
- ・ 会長
第5部会に防災が入っているので、ここで検討することとなる。
- ⑨ 審議会委員意見
事業の継続性があるので、今まで実施してきた施策を突然やめることはよくないと思うので、今までやってきたこと、やめるもの、今後必要となるものをわかるようにした方がよい。
- ⑩ 審議会委員意見
各部会に市民活動センターの職員であるファシリテーターのほか、部会長、副部会長がいるようだが、それぞれの役割はどのようになるのか。
- ・ 会長
部会ごとにファシリテーターの役割を変えてもよいと思う。

⑪ 審議会委員意見

まちづくりスタッフ会議委員の平均年齢は。若い人が検討の中心になるようでないといけないと思う。

- ・ 事務局

公募委員のみであるが、57歳である。

⑫ 審議会委員意見

中期的な課題、長期的な課題とあると思う。分類して検討した方がよいのではないか。

- ・ 会長

意見として承り、事務局で検討する。

- ・ 会長

事務局がスタッフ会議の資料として提出する課題は重要性、緊急性などがわかるように区分して記載すること。

重点プロジェクトと分野別計画の重点施策がリンクするような資料を作成すること。
基本計画の素案について、基本構想の考え方とつながる文言等のエッセンスを全分野に入れること。

(3) 平成27年度予算について【資料No.42】

(4) 総合計画実施計画（H27・H28・H29年度）について

(5) 新市建設計画事業の進捗状況について【資料No.43】

事務局から説明を行い、質疑・意見を求めた。

- ・ 質疑・意見はなし

午後3時35分 閉会

9 公開、非公開の別 公開

10 傍聴者の数 2人（報道機関）

11 担当課 企画振興部企画調整課